ゆめ半島 千葉国体 2010

国体の記憶 ⑫

歯を食いしばったその先に

このコーナーに登場してくれる人を募集します。くわしくは広報課（☎20-1503）へ。

安藤 綾子さん（加良部）
（旧姓：長南）
東京都葛飾区出身。昭和学院高校（市川市）在学中に水泳で昭和46年和歌山、同47年鹿児島国体へ。セントラルスイミングクラブ指導員を務めていた昭和48年には千葉国体にも出場した

高校2・3年時、水泳でインターハイと国体に連続出場した。いずれも全国最高峰の競技大会。だが、力を込めてこう話す。「出場できたか、できなかったかは結果でしかない。わたしにとっては歯を食いしばり、日々積み重ねてきたものこそが誇りなんです」。自身が中学生のときに抱いた「全国出場に何の価値があるのか」という疑問に、高校時代に出した答えだ。

水泳の強豪・昭和学院出身。中学3年の大会では、背泳ぎで千葉県一になり全国大会へ。「次はインターハイ、国体だ」と騒ぐ周りを尻目に「そんなに頑張らなくていいんじゃない？」と何となく冷めていた。

高校に入ると、そんな考えも吹き飛ぶほど厳しい練習が待ち受けていた。授業の後に泳がされたのは、毎日1万メートル。しかも、少しでも手を抜こうものなら容赦なく竹の棒が飛んでくる。「お尻を叩かれると大きなみみず腫れになり、痛くて次の日まで座れないほど。毎日くたくたで、『寝るのが一番の幸せ』という状態でしたね」。中でもつらかったのが、まだ肌寒い4月のプール。毎年水温が10℃を超えると練習が始まるが、感覚としては冷水に近い。50mも泳ぐと体が真っ赤に染まり、頭がズキズキと痛んだ。「用務員さんがお風呂を沸かしてくれるのですが、冷え切った体では、すぐには熱くて入れません。お湯に慣れてくると同時に寒さがやってきて、がたがたと震えが止まりませんでした」。

必死に練習を続けるうちに「苦しい、やめたい」という思いは、いつしか消えた。記録も伸び、3年時には自由形をはじめとして、その年の県記録ランキングを独占した。

「中学入学のとき30人いた部員で高校卒業まで残ったのは2人だけ。逃げずに最後までやり抜いたという誇りと自信。それは今の自分を支える土台になっているんです」

現在、美容関係の店舗のオーナー社長として9人のスタッフを束ねる。数々の困難にも直面するが、多少のことでは「くじけません」。

千葉国体の競技会場で（昭和48年）

編集後記

9月1日朝、市民から「小学校にフクロウがいる」と連絡が。早速向かうと、校庭の木の枝にチョコンと止まっていました。近付いても逃げる様子はなく、羽繕いや大きなあくびにシャッターをパチリ！フクロウは学問の神・英知の象徴とされ、旧首相官邸の屋上には、4羽のフクロウ（彫刻）が四方に目を光らせていました。2学期初日に“学問の神・英知の象徴”が小学校に飛来。児童たちの目にはどう映ったのでしょう？

成田市役所本庁舎（行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署）はISO14001の認証登録を受けています。

平成21年9月15日号 No.1155　成田市のホームページ http://www.city.narita.chiba.jp

平成21年9月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課　〒286-8585 千葉県成田市花崎町760番地　電話22-1111（大代表）
広報なりたは再生紙を使用しています。